

## 糊防染による繰り返し模様の型染め

千葉県立市川東高等学校 工芸 堀 悦子

【制作工程】 \* \_\_\_\_\_ は「用具・材料など用意するもの」

### A デザイン(2時間)

- ①単位となる模様を下図用紙に書く。デザインには必ず「伝統的な文様」を用いる。
- ②縦横に4つずつ連続する効果を考え、配置図を書く。(裏面参照)
- ③藍染めする部分が全部つながるように黒く塗りつぶす。つながらないところは「つり」を作る。そのまま型紙の下図になるので、下図用紙には製図用具を使ってきちんと書く。

### B 型彫り(3時間)

- ①下図用紙を枠で切り取り、剥がせるスプレー糊で渋紙の中央に貼る。渋紙は糊置きの場合上、各辺とも3cm位大きくしておく。
- ②カッターマットを敷き、デザインカッターで白い部分を切り落とし、残った下図用紙を剥がす。

### C 紗張り(1時間)

- ①白い紙、四つ折りにした新聞紙3枚の上に渋紙、細目紗の順に乗せる。細目紗はシワを伸ばすため、渋紙より各辺とも2cm位大きくしておく。
- ②霧吹きで軽く水をかけ、雑巾で拭き取る。
- ③薄め液で薄めたカシューを、布目がまっすぐになるよう、中心から外に向かって刷毛で塗る。
- ④新聞紙を1枚ずつ除き、ティッシュや綿棒、楊枝で目詰まりを取る。最後は白い紙の上で確認する。

### D 糊置き(4時間)

- ①生地をベニヤ板に、画紙で16箇所止める。水で消えるデザインペンで、枠、型紙を置く位置と向き、順番を書いておく。
- ②型紙は予め20分くらいバットなどに水を入れて浸しておき、糊置きの直前に新聞紙と雑巾で表面の水分を拭き取る。①で書いた枠に合うよう、マスキングテープで「あたり」をつけ、油性ペンで型紙の向きを書いておく。
- ③型糊は鍋に移して、消石灰を水で溶いた上澄みや亜鉛粉を入れ、しゃもじでちょうどよい硬さによく練っておく。型糊をしゃもじでトレーに取り、駒べらを使って糊置きする。隣り合うところは、ドライヤーを使って乾かしてから糊を置く。

### E 藍染め(10分位×2回。他の課題と並行して行う)

- ①染液は、ステンレス容器(60 L)に藍染料を溶いて作っておき、何枚か染めたら、染料、消石灰やハイドロサルファイトコンクを入れて調整する。
- ②ゴム手袋を嵌め、浸透液→水→染液の順に入れる。染液の表面に浮かぶ「藍の華」を新聞紙で除いたり浮き上がった缶を棒で押さえたり、タイマーで時間を計るところは、二人組みで行う。染液に入れて1分経ったら、指後が残らないようそっと持ち替え、更に1分染める。
- ③物干し竿に干すときには、下にも洗濯ばさみを挟み、棒を通してできるだけ広げて酸化発色させる。缶の方向を揃えて、糊が他の作品に付かないように気をつける。
- ④次の授業時に2度染めし、色を濃くするとともにムラをなくす。

### F 糊落とし(20分位)

- ①コンテナなどに水場を作り、ソーピング剤を入れて布を浸し、糊がふやけてきたら、ゴム手袋を嵌めて擦り落とし、洗う。水が透明になったら、定着液に浸し、強く絞らずに物干し台に干す。下の棒は要らない。

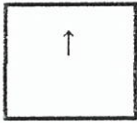
### G 色差し(2時間)

- ①アイロンを掛けた布を、間にフェルトを挟んでベニヤ板に画紙で16箇所止める。
- ②アクリル系絵の具を刷り込み刷毛で刷り込む。「ぼかし」や「グラデーション」などを効果的に使う。
- ③24時間以上経ったら、当て布をしてアイロンを掛け、定着させる。

☆ 裏面に《単位となる模様と、配置図のパリエーション例》あります。

《単位となる模様と、配置図のバリエーション例》

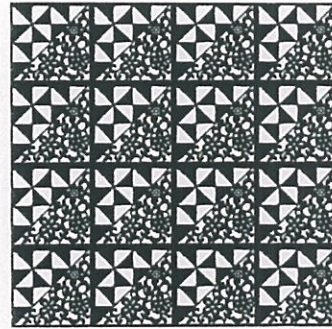
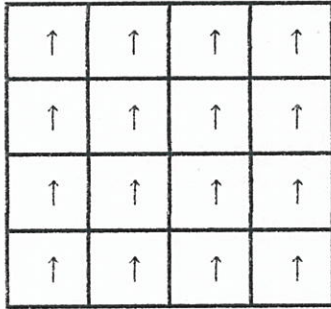
【型紙の方向】



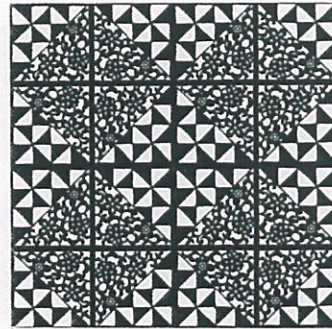
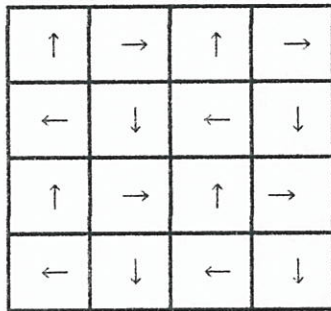
【単位となる型紙】



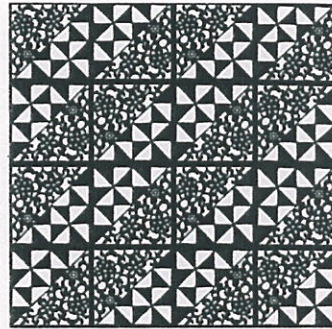
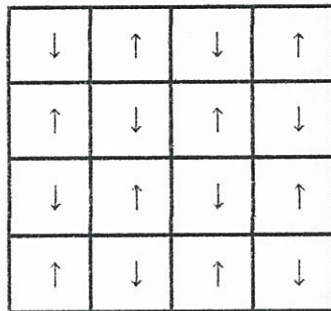
【配置例① 同じ向き】



【配置例② 回転】



【配置例③ 互い違い】



【配置例④ 交互】

